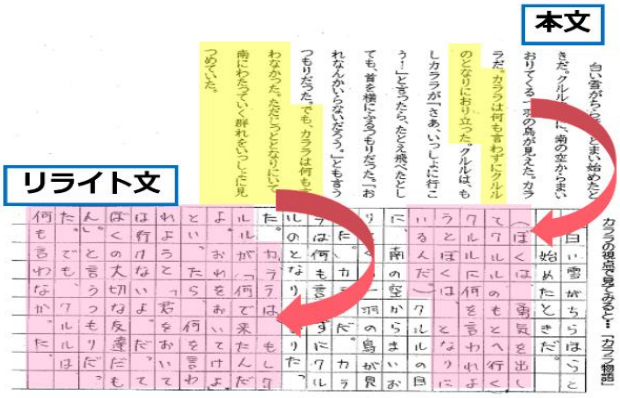
小学校国語科　第６学年　単元名「人物と人物の関係を考えよう」

児童の活動の振り返りと教師の価値付けの工夫

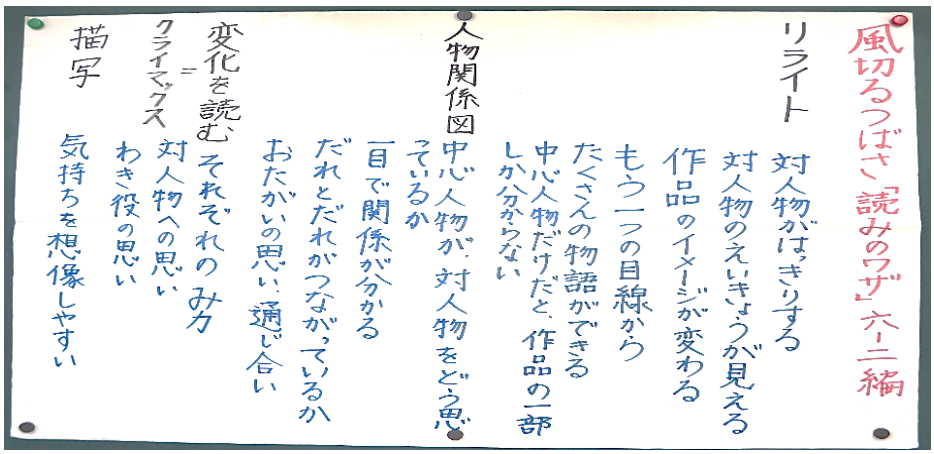
「わかる」レベルの授業から，「使える」レベルの授業へ！！

文学的な文章の指導では，読解に重点が置かれると，作品の内容理解だけで学習が完結してしまうことがあります。単元を通して，何が身に付き，どのように活用できるかを自覚させるためには，どうすればよいのでしょうか。

そのために，習得と活用の間に，何を学んだのかを自覚できるリフレクションを取り入れて単元を構想しました。

習得（教科書教材「風切るつばさ」）	つなぐリフレクション	活用（並行読書教材から自分が選んだ本）
 対人物の視点から リライト（書き換え）する		対人物の視点から本を読み ビブリオバトルで紹介する

教科書教材と副教材をつなぐリフレクション



ポイント！

「風切るつばさ」で何を学び，ビブリオバトルで何が使えるかを見通す場を設定する。

個の学びに意味付け・価値付けを行い，学級全体で共有し，一般化を図る。

アクティブ・ラーニングの視点による授業改善のポイント

学んだことの振り返りは，授業や単元の終末だけにあるとは限りません。習得と活用の間に振り返りの場を設けることで，「物語というのは，こういうところに気をつけて読むと，その構造やおもしろさがわかるんだ」と子どもが気づき，他の作品でも使ってみようとする主体的な姿が見られました。